



伊那市議会9月定例会では、20議案と請願・陳情1件、議員提出議案1件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された議案を紹介します。

全会一致で可決された議案

(一般案件)

- ◆第2次伊那市総合計画基本構想の策定について
- ◆公の施設の指定管理者の指定について(旧中村家住宅)

(条例案件)

- ◆伊那市役所支所設置条例及び伊那市地域自治区条例の一部を改正する条例
- ◆伊那市税条例等の一部を改正する条例
- ◆伊那市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

(平成29年度決算認定案件)

- ◆伊那市一般会計歳入歳出決算認定
- ◆伊那市国民健康保険特別会計ほか特別会計5会計歳入歳出決算認定

- ◆伊那市水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び決算認定
- ◆伊那市下水道事業会計資本金の額の減少及び決算認定
- ◆伊那市自動車運送事業会計決算認定

(予算案件)

- ◆平成30年度伊那市一般会計第2回補正予算
- ◆平成30年度伊那市国民健康保険特別会計第1回補正予算
- ◆平成30年度伊那市介護保険特別会計第1回補正予算
- ◆平成30年度伊那市宮駐車場事業特別会計第1回補正予算
- ◆平成30年度伊那市公有財産管理活用事業特別会計第2回補正予算

(請願・陳情)

- ◆性的少数者の人権保護と認知教育の充実を求める請願

(議員提出議案)

- ◆LGBTを含む性的少数者への差別解消と社会環境整備を求める意見書の提出

※なお、賛否の分かれた議案等はありませんでした。

9月定例市議会

一般質問から

伊那市議会9月定例会の一般質問は、9月5日、6日、7日の3日間にわたって行われ、20人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。



松澤嘉

地域自治会の 自主防災組織について

問 松澤嘉議員 自主防災組織の活動の実態は。

答 市長 組織率は区を単位にした場合100%であり、細分化した常会を含めて184の自主防災組織がある。少子高齢化による人材不足は悩ましい問題だが、地域で集まりを持ち、困っていることを話し合う事が重要。自主防災組織の連絡会を通じて、先進事例を取り込んだ組織作りを進めていきたい。

問 松澤嘉議員 自主防災組織への補助金の状況は。

答 危機管理監 平成29年度は14件の218万円。平成30年度も現在18件、210万円の補助金申請がある。

問 松澤嘉議員 伊那市のハザードマップの活用状況は。

答 市長 市の防災マップは、平成27年度に作成し活用しているが、本年度改訂する予定であり、お出掛け講座や研修会等の場で、今後も力を入れて啓発していく。

河川の中の立木の処分について

問 松澤嘉議員 国・県管理の河川内の立木が洪水の危険になりかねない。引き続き地元の見解として、河床整備と立木処理を強く要請すべき。

答 市長 国や県の管理になるが、地域の人達とも協力して河川内の立木処理を進めていく。また、伊那市河川治水

砂防促進期成同盟会を通じて適正な維持管理を要望していく。



馬場毅

保育室のエアコン設置について

問 馬場毅議員 今後の設置計画における私立の保育園・幼稚園、認定こども園、認可外保育園への市の対応は。

答 市長 私立にも公立保育園と同様にエアコン設置は必要。私立の幼稚園、保育園、認定こども園には本年度中に市単独の補助要綱を作り、来年度に施行する。国県にも補助を要望していく。

PTA会費の使途について

問 馬場毅議員 PTA会費から学習ドリルやテストの購入費、学校施設整備の費用が一部まかなわれている。本来行財政が負担すべき費用では。

答 教育長 学習ドリル(テキスト)等は保護者が負担する経費。環境整備作業に使う草刈り機の燃料等は学校のものを使ってもらうのが基本。本来

の使途でない例があれば個別に対応する。

給食の無料化を

問 馬場毅議員 子育て世帯の経済的負担軽減策として給食費の無料化を。

答 教育長 学校給食費を無償化することで家庭の経済的負担の軽減となり、教職員にも給食費の徴収・管理する事務等が軽減されるという効果は考えられるが、年間で大変大きな予算が必要になるということで今後の課題としたい。



人口増加地域の道路について

問 原一馬議員 人口増加地域の生活道路は、交通量の増加により状況は年々変化していくが、それに応じた対応が必要。市道の中長期的な維持管理計画はあるのか。

答 市長 市道は1970kmの総延長があり7割以上が舗装されている。良好な状態を保ち安全を確保するためにパ

トロールを実施し、地元区からの要望によって優先度、緊急度に応じた維持補修を行っているのが現状。中長期的な維持管理計画は無いが、主要幹線道路については、舗装長寿命化修繕計画を策定して実施していく。

人口増加地域の道路対策は。市道も見受けられる中、区からの要望によって優先度・緊急度等を考慮しながら実施している。人口増加地域に限った対策はない。歩道については、伊那市通学路交通安全プログラムにより、通学路の安全確保を優先して進めている。

中山間地域農業政策の諸課題に対する市の取り組みについて

問 宮原英幸議員 中山間地域農業政策の今後の市の取り組みは。

答 市長 中山間地域の維持は市にとっても重要。直接支払制度では、高齢化・担い手不足が深刻。草刈り支援等を含め、第5期対策として継続的に集落支援をしていく。



空き家対策について

問 宮原英幸議員 協議会設置に係る議決後の進捗は。

答 市長 年内に協議会を立上げ、庁内連絡会などの体制整備をする。

問 宮原英幸議員 若者の就業支援への取り組みなど、総合的の地域施策が必要では。

答 市長 現在の施策に加え、さらに有効な策を模索し定住促進を図りたい。

問 宮原英幸議員 協議会設置に係る議決後の進捗は。

答 市長 年内に協議会を立上げ、庁内連絡会などの体制整備をする。

問 宮原英幸議員 市として空き家数の把握はしているか。また苦情の状況は。

答 市長 昨年度の基礎調査では、一定条件下の空き家候補は2221棟。苦情は前年度9件、今年度6件で、昨年度1件の緊急対応をした。

問 宮原英幸議員 助成制度が周知不足では。

答 市長 賃貸希望に対して物件不足がある。定住自立圏構想も踏まえ周知していく。

問 宮原英幸議員 農地付空き家で、農地取得の面積条件緩和はできないか。

答 市長 希望者のニーズ、周辺市町村の状況も確認し、関係機関ともさらに検討をしていきたい。

問 宮原英幸議員 市として空き家数の把握はしているか。また苦情の状況は。

答 市長 昨年度の基礎調査では、一定条件下の空き家候補は2221棟。苦情は前年度9件、今年度6件で、昨年度1件の緊急対応をした。

問 宮原英幸議員 助成制度が周知不足では。

答 市長 賃貸希望に対して物件不足がある。定住自立圏構想も踏まえ周知していく。

危険ブロック塀等の安全対策について

問 柴満喜夫議員 危険ブロック塀の撤去等に対する助成内容は。

答 市長 エネルギーについてもベースに置いてやっていきたい。それに直結する森林を守り育て、活用する循環の取組みは重要。循環が効果を生み出す力強いまちを目指していく。

問 柴満喜夫議員 異常気象の頻発について

答 柴満喜夫議員 異常気象に備える対策強化は。

問 柴満喜夫議員 第2次伊那市総合計画における伊那市のビジョンは。

答 市長 エネルギーについて

問 柴満喜夫議員 第2次伊那市総合計画における伊那市のビジョンは。

答 市長 エネルギーについて

問 柴満喜夫議員 異常気象の頻発について

答 柴満喜夫議員 異常気象に備える対策強化は。

問 柴満喜夫議員 第2次伊那市総合計画における伊那市のビジョンは。

答 市長 エネルギーについて

問 柴満喜夫議員 異常気象の頻発について

答 柴満喜夫議員 異常気象に備える対策強化は。

問 柴満喜夫議員 第2次伊那市総合計画における伊那市のビジョンは。

答 市長 エネルギーについて

問 柴満喜夫議員 異常気象の頻発について

答 柴満喜夫議員 異常気象に備える対策強化は。

問 柴満喜夫議員 第2次伊那市総合計画における伊那市のビジョンは。

答 市長 エネルギーについて



春富中プール ブロック塀撤去工事
【写真提供:伊那ケーブルテレビジョン(株)】

答 市長 世界的な異常気象が起きてきている今、二市だけでは対応が出来ない。天竜川上流河川事務所等との間でタイムラインを作成し、また、事務所長とのホットラインにより、直接連絡がとれる体制になっている。国・県と連携し、市民の皆様には正確な情報を流すことが安心につながる。



白鳥敏明

伊那まつり花火の市民協賛金の徴収方法について

問 白鳥敏明議員 伊那まつりの花火の市民協賛金の徴収方法に工夫が必要では。

答 市長 初めての取り組みとなった市民協賛金は、市民総参加による花火大会にしたいという趣旨。協賛金は強制ではないが、自治会を通じての募集は断りにくいという声もある。実行委員会でも来年度も実施することになれば、市民の理解が得られる方向での検討が必要。

健康長寿社会の実現に向けて

問 白鳥敏明議員 保健センターに健康管理や相談の窓口を常設し、長藤・長谷健康増進施設と連携させ、運動継続の成果が確認できるなど、健康寿命延伸に向けた二連の活動拠点にする仕組み構築の検討を。

答 市長 保健センター・各支所は、毎週火曜日午前が健康相談日で、保健師が各種相談に応じ、必要な場合は血圧や体組織測定を行っている。平日には本庁の健康推進課窓口で、保健師が随時健康相談に応じている。今後もより身近な各支所を含めた現在の相談窓口体制で、保健指導を継続していきたい。運動習慣継続の成果の確認は、現状の健康相談のなかで実施していきたい。



二瓶裕史

農地法第3条の下限面積について

問 二瓶裕史議員 農地法第3条の下限面積は、農地を売買等するに際して非常にハードルが高い。別段の定めとし

て緩和しているが依然として断念するケースも多い。移住定住の観点からも、空き家バンクに登録していることを条件に、下限面積を1㎡とすることはできないか。

答 市長 極端に下限面積を小さくすることは農業振興を阻害する恐れもある。移住定住促進については優先的に進めていく重要施策。ニーズを分析し検討したい。

市民が望む公園の在り方について

問 二瓶裕史議員 徒歩圏内に公園が欲しい、という声がある。立派なものだけでなく、たとえば、空き家の寄附を受けて公園整備をするといったことはできないか。

答 市長 子どもと遊べる公園が少なくないという声があることは承知している。現在ある各公園の個性を創出することが重要。情報も発信していきたい。寄附については、地域のにぎわいの創出、地域コミュニティの活性化につながることを期待できる場合には個々に対応を考えたい。



飯島進

戸草ダム早期建設を

問 飯島進議員 戸草ダム建設設計画は今の時代が求めている事業。戸草ダムは治水だけでなく利水を含めた多目的ダムとして必要。中断している戸草ダムの早期建設を。

答 市長 三峰川上流域の治水対策は下流域の安全を担保するためにも重要な課題。ダム上流の砂防対策の推進は引き続き国に要望を続けていく。ダムが災害を防ぐのは過去の例を見ても明らかで、異常洪水時には、美和ダムと釜口水門だけでは足りない。戸草ダムは、進行中という考えに変わりはない。河川は流域全体で管理することが重要。「地域に開かれたダム」全国連絡協議会が美和ダムで開かれるので、上下伊那の市町村だけでなく、諏訪圏域の首長にも参加いただき、ダムの重要性を認識してもらい、国や県への要望活動を強めていきたい。

農家等への収入保険の推進

問 飯島尚幸議員 農水省は来年1月から、農家農業法人に対し、収入保険制度を導入する。強い農業経営を後押ししようと、県農業共済組合が中心になり、目下、加入推進にあたっている。この制度への認識と評価、支援策は。

答 市長 農業経営における従来のマイナス部分をカバーでき、掛け金率1%程度で農家収入の8割を確保できる仕組みで、大変有益な制度。大いに活用してほしい。ただ他の農業共済などとダブって加入できない



飯島尚幸

エネルギー循環の時代が来ており、戸草ダムから県が巨手を引いた水力発電についても復活すべきで、工業用水や飲料水などの利水にも活用すべき。この10年で気象の変化は常識を超えており、河川整備計画の社会経済情勢の変化はある。ダム建設の時期はもう来ている。

いので、慎重な見極めが必要。市農業振興センターの会議等でも説明したり、今後も周知に努めていく。

市財政の充実について

問 飯島尚幸議員 合併特例債という有利な借金が平成32年度迄となっている。現状と今後の予定は。また本年度の予算執行を出来るだけ早めてほしい、との市民意見が多い。

答 市長 19億5千万円の合併特例債が割りあてられている。29年度末で157億7千万円、残りは幹線道路網や子育て、教育関連事業に充当していきたい。予算執行率は8月末時点で全体では40.3%、市民要望の高い道路補修は36%、水路補修は17%である。早期執行に努めていく。



前田 久子

認知症対策について

問 前田久子議員 ①認知症高齢者と家族を支える

3つの事業の進捗状況はどうか。②認知症サポーターとしての活躍の場を明確にするべきでは。③介護ボランティアをする毎に、ポイントを付与する制度導入は。④親が子、孫の面倒を見る「80・50問題」は深刻な社会問題であるが対策は。

答

市長 ①「初期集中支援チーム」は、40歳以上で在宅の方を対象に伊那神経科病院へ委託をして包括的に支援している。「オレンジカフェ」は、土日開催の工夫等、広報して参加増を図る。「イーナ介護なんでも相談所」は、身近で相談できるようにと介護施設33箇所を設置。徘徊時に早期発見できる体制も検討中である。②社協で生活支援サポーターを養成しているの

で連携していく。③ポイント制度は有効な支援の仕組みなので検討する。④子の引きこもり、精神疾患、制度のはざま等へ対応する総合支援体制を構築していきたい。

終活支援事業導入について

問 前田久子議員 遺言信託、延命措置の有無等、生前契約を自治体が行う例が増加傾向にあるが伊那市はどうか。

市長 伊那市が仲介をする終活支援事業を研究する時がきている。

答

市長 伊那市が仲介をする終活支援事業を研究する時がきている。



柳川 広美

学校の熱中症対策について

問 柳川広美議員 気温が35度を超える教室もあり具合の悪くなる子どももいる。すべての教室にエアコンを設置するのはいつ頃か。また、今年の夏、学校で熱中症と思われる状況になった児童・生徒はどれくらいいるか。

答

市長 近年の異常な猛暑により学校へのエアコン設置は急務。今年度は保育園を優先している。より効果的な設置ができるようにしたい。

教育長 小中学校21校で約800室ある。エアコン設置には高圧受電設備等も必要であり、すべての教室に来年夏までの設置は大変厳しい。温度調査などを参考に検討し、できるだけ早く設置したい。

教育次長 救急搬送し熱中症と診断された児童が1名、熱中症疑いで早退した児童が61名、

保健室対応が132名、水分補給で回復した児童が8名。

特定の保育園を希望する3歳未満児の待機児童対策

問 柳川広美議員 特定保育園希望の3歳未満児は7月で50名であるが、空き部屋の状況と入れない理由は何か。また昨年と昨年7月の同待機児童数は何人か。

答 市長 空き部屋はない。入れない理由は保育士不足であり引き続き保育士の確保に取り組んでいく。

保健福祉部長 昨年は58名、一昨年は60名。



飯島 光豊

西日本豪雨災害における倉敷市真備地区の水害の教訓を伊那市でも生かすために

問 飯島光豊議員 ①真備地区の水害は水深4.8m

で死者の8割が高齢者溺死だが教訓は。②伊那市防災マップも最大想定水深は5.2mだが想定降雨量は。③天竜川上流河川事

務所が示す想定最大規模の起きる降雨量は。④平成18年水害は529ミリ、昭和58年水害は1日に200〜350ミリだったという記録だが市の防災マップをどう改定するか。⑤昭和13年の西春近の大規模水害はバックウォーター現象。防災マップ改訂で検討するか。⑥天竜川水位上昇で起きる堤内内水氾濫被害も検討すべき。⑦災害の時、誰が誰をどこに避難させるかを示す災害時支え合いマップが大事。作成地区に補助金を。

答

市長 ①降雨量200ミリで支流の堤防が決壊した被害。人命を守る一番の方法は早めの避難が必要。⑤昭和13年のことを私は存じあげていないが、バックウォーター現象は平成18年災害が思い浮かび、今後の重要な課題として国県と話す。

危機管理監 ②降雨量260ミリを想定したもの。③降雨量605ミリを想定したもの。④国・県とも協議を進めており、現在防災マップの内容について検討中。

⑥内水氾濫被害は国のシミュレーションがないため載せられない。⑦社会福祉協議会等が中心となり作成を進めるとともに助成も行っている。自主防災組織

の連絡会においても作成・更新について周知していく。



平成18年豪雨 天竜川明神橋



唐澤稔

熱中症対策について

問 唐澤稔議員 伊那市における熱中症被害の状況は。

答 市長 市全体では47人が搬送。7月が最も多く25人、また年齢別では、18歳未満が15人、65歳未満14人、65歳以上の高齢者が18人。

問 唐澤稔議員 高齢者に対する対策は。

答 市長 市ではホームページや安心安全メール、有線放送などを利用した熱中症に対する注意喚起を行っている。職員が高齢者世帯へ訪問する際にも確

認を行っている。

問 唐澤稔議員 高齢者世帯に対するエアコン設置補助について考えは。

答 市長 エアコン設置には相当の費用負担が発生すること、またランニングコストの電気代等もかかるため、高齢者世帯では導入が進まない状況であるが、国による補助制度がない現状では市単独での導入は難しい。

学校の夏季休暇について

問 唐澤稔議員 夏季休業については全国の多くの小中学校が31日以上である。夏季休業の日数等、あり方に対する考えは。

答 教育長 今年度は小中学校21校中10校が、7月下旬から8月20〜22日までの27日間の夏季休業としている。県教育長の夏休みを延長する方向で検討する場を設けたいとの表明を受け、県の動向も注視しつつ、伊那市としての夏季休業のあり方について検討したい。

大坂北部地震の反省を生かした小中学校の安全管理の再確認について

問 野口輝雄議員 学校の校舎内や敷地内には、ブロック塀の他にも危険な物がないか早急に確認の必要がある。また危険な物が見つかったら、対応はスピード感を持って行ってほしい。

答 市長 公共施設では常に安全な状態になるよう管理している。指摘の学校敷地内の危険物や校舎内の落下の恐れのある物についても、再度調査し早急に対応する。以前に指摘を受けた危険物の撤去については危険意識の欠落であった。今後はスピード感を持って対応する。

小中学校のこれからの熱中症対策について

問 野口輝雄議員 エアコンを導入しただけでは熱中症対策にはならない。夏休みを延ばす事以外でも熱中症対策はできる。現場の教師を交えてアイデアを出してほしい。

答 教育長 夏休みの前倒しについては慎重に検討する。今後学校の年間計画作成や教育課程編成について丁寧な検討したい。

議会のICT化の拡大について

問 野口輝雄議員 3年前から議員にはタブレットが貸与され、ペーパーレス化や効率化などICT化を図っている。そろそろ市長部局職員もタブレットを導入してはどうか。

答 市長 タブレットはメモ機能が課題であるが通信端末としての効果は大きい。今後ペーパーレス化や災害時の通信手段としても研究していきたい。



本会議での活用



宮島良美

公契約条例の制定に向けて

問 宮島良夫議員 安さを追求する競争入札から、公共サービスの質の向上や自治体

政策実現に資する入札に向け、雇用安定、適正な賃金・労働条件、障がい者雇用等総合評価する公契約条例の制定について考えは。

答 市長 公契約条例を制定する自治体はあまり広がりず、全国で1・9%程度。伊那市が他市町村に先駆けて取組む状況にないが、労働者への適切な賃金水準の確保が図られるような入札制度に引き続き取り組んでいく。平成32年度に施行される、改正地方公務員法等に基づく会計年度任用職員制度について、平成31年9月議会に、関係条例を提案する予定で検討している。

子育て日本の伊那市を目指して

問 宮島良夫議員 学童保育の料金が高いとの声がある。特に長期休業中の料金について保護者の負担が大きいが見直すつもりはないか。

答 市長 上伊那の8市町村で、伊那市と同じ料金は4市町村であり、県内では7千円から無料までである。19市の状況を見ながら検討していきたい。



小林眞由美

伊那市の地域防災について

問 小林眞由美議員 自主防災組織の活動状況と今後のあり方について考えは。

答 市長 自主防災組織の活動に温度差がある中、今後複数年活動可能な人材配置を含め、真に実力のある組織となるよう研修等を実施していきたい。防災活動により地域のコミュニティ、総合力も活性化される。

問 小林眞由美議員 防災イザアの地域自主防災組織への協力について考えは。

答 市長 研修や防災お出かけ講座を通じ、自主防災組織との信頼関係、気軽に相談できる相互関係の構築を図ってきたい。

問 小林眞由美議員 地域防災計画にタイムラインの導入を。

答 市長 現在作成中。今年11月までに完成させたい。

いなし出合いサポートセンターの現状とあり方について

問 小林眞由美議員 サポートセンターの現状と課題は。

答 市長 10年間で100名超えの成婚があったが、社会環境の変化等から結婚支援のあり方を再検証する時期でもある。イベントなど出合いの場の創出に努める。

問 小林眞由美議員 未婚者、高齢者、障がい者等、幅広い対応と支援を。

答 市長 多方面に効果が及ぶよう、相談窓口の充実と、全庁横断的な事業の推進により、あらゆるニーズに対応していきたい。



三澤俊明

イクボス宣言の反響と効果について

問 三澤俊明議員 これから取り組む企業に向けて、市役所のイクボス宣言の反響と効果はどうであったか。

答 市長 宣言から1年が経過し、育児・介護など個

別事情の把握や管理職のセルフチェックが重要で概ね良好。大きな反響には至っていないが、若い世代が就職先を決める際にはワークライフバランスに注目をするので、市内企業への拡大に向けて取り組んでいきたい。

長期休暇時などの特別学童クラブの早朝延長について

問 三澤俊明議員 児童の受け入れ時間を現在の午前8時からではなく、希望があれば7時45分、7時30分などに早朝延長出来ないか。

答 教育次長 今後利用者の声も聞きながら、課題となる指導員・協力員の確保も含めて検討していきたい。

河川上空の物流ドローンの防災目的での利用について

問 三澤俊明議員 物流ドローンについて、防災など多目的での利用は考えていないか。

答 市長 ドローンからの画像情報で危険箇所や異常箇所を確認し、被害把握や行方不明者の捜索にも活用できる。今後具体的に実行に移せるよう進めていく。



唐澤千明

7月の西日本豪雨から得るものについて

問 唐澤千明議員 ①避難勧告発令時点での地域自主防災組織と行政の動きは。②ダム緊急放流に関する下流住民への周知は。

答 市長 ①基本的な考えは、空振りを恐れず住民へ必要な避難行動の情報を伝達すること。避難勧告発令時には自主防災組織の会長へ連絡し避難を呼びかけるとともに消防団や市職員も呼びかけを行う。②市では安心安全メールや防災行政無線で広報し、ダムではサイレンと文字情報で周知している。

第2次伊那市総合計画基本構想について

問 唐澤千明議員 ①第1次総合計画の今年度までの検証はできたのか、また課題は。②第2次総合計画でリニア開通に向けた取り組みや、少子高齢化進行に対する考え方は。

答 市長 ①まちづくりの市民アンケートから、需要が高いが満足度が低いものに市街地の活性化、公共交通の充実、定住人口の増加などが挙げられた。財政健全化を進めながら活力ある伊那市づくりに努めていく。

②リニアの整備効果を高めるために地域間を結ぶ交通ネットワークを充実させ、少子高齢化には未来を担う子どもを安心して産み育てられる環境づくりに取り組む。



田畑正敏

買い物弱者支援サービスの具体的施策とビジネスモデル確立について

問 田畑正敏議員 伊那市の買い物弱者の該当者は何人いるのか。

答 市長 食料品の買い物調査で不便を感じている世帯は、約1200世帯と推計される。

問 田畑正敏議員 移動販売車購入の補助、または市が購入して貸し出す事は出来

ないのか。

答 市長 民間ビジネスという見方がちがいが、これを超えた支援ができるか考えたい。

問 田畑正敏議員 買い物弱者対策に向けビジネスモデルの確立が不可欠だと思うが。

答 市長 最も伊那市にふさわしい姿はどんなものか原点に振り返り考え、それを実行に移していく。

再生可能エネルギーエリアの指定と地域振興について

問 田畑正敏議員 上伊那クリーンセンター周辺二帯を、「伊那市の再生可能エネルギーエリア」と位置付け、指定公表したらどうか。

答 市長 この周辺には関係施設が集積している。現在仮称ではあるが、「市再生可能エネルギーエリア」と位置付け、環境学習や地域振興につながる体験の場としての活用を検討している。



池上直彦

外来植物などの駆除について

問 池上直彦議員 北沢峠周辺のクリンソウについては、ここ10年位前から見かけるが駆除は出来ないか。

答 市長 駆除には環境大臣の許可が必要だが、在来種の保存の見地からも学術的な検討をしたい。

問 池上直彦議員 ヨツバヒヨドリについて、林道の法面を中心に増え生態系に影響が懸念されるが、今後の取り組みは。

答 市長 生態系に与える影響が不明であり、当面は様子を見たい。

問 池上直彦議員 オオキンケイギク、アレチウリなど外来植物の駆除の状況は。

答 市長 外来植物の増加は動物や植物の生態系に影響があり、必要に応じ市民の力を借りながら駆除していきたい。

問 池上直彦議員 7月上旬の災害などの状況について

問 池上直彦議員 7月上旬の大雨による船形沢の工事現場などの被災状況は。

答 市長 南信森林管理署による工事は順調に進んでいる。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

いる。

問 池上直彦議員 市道三峰川線については通行止が続いているが、豪雨による被災状況は。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道三峰川線については通行止が続いているが、豪雨による被災状況は。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道は仮復旧工事により通行可能だが、引き続き丸山谷先で工事を行っており、巫女淵先は復旧の見通しが立っていない。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道は仮復旧工事により通行可能だが、引き続き丸山谷先で工事を行っており、巫女淵先は復旧の見通しが立っていない。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道は仮復旧工事により通行可能だが、引き続き丸山谷先で工事を行っており、巫女淵先は復旧の見通しが立っていない。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道は仮復旧工事により通行可能だが、引き続き丸山谷先で工事を行っており、巫女淵先は復旧の見通しが立っていない。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。

問 池上直彦議員 市道は仮復旧工事により通行可能だが、引き続き丸山谷先で工事を行っており、巫女淵先は復旧の見通しが立っていない。

答 市長 砂防関連工事により危険個所の工事を進めている。



ブッドレア(外来植物)



ヒロドモズイカ外来植物

お知らせ

請願・陳情

請願・陳情は、定例会開会前に開催される議会運営委員会の前日正午までに提出されたものを、その定例会で原則審査します。ご提出いただきました請願・陳情は、定例会本会議で委員会へ付託し、審査報告の後、本会議で採決します。

次回12月定例会審査の受理期限は、11月16日正午です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認の上ご提出ください。)

傍聴にお越しく下さい

9月定例会市議会は、120人の方が傍聴されました。市議会は、どなたでも傍聴できます。なお、団体で傍聴される場合は席に限りがありますので、あらかじめ議会事務局までご連絡ください。

議会中継

議会中継は、伊那ケーブルテレビ「伊那市チャンネル」で放送しています。再放送も行っていますので是非ご覧ください。チャンネルは次のとおり。

デジタル 11チャンネル
STB(デジタルチューナー)でご覧になる場合は
デジタルC 511チャンネル

次回12月定例会の詳しい放送予定は、「市報いな」12月号をご覧ください。



黒河内浩 議長



「市民と議会との意見交換会」を開催

伊那市議会では、開かれた議会、分かりやすく信頼される議会への改革を進めています。その一環として実施している「市民と議会との意見交換会」も今年で4回目となりました。

3日間、3会場で合計115人の皆様においでいただきました。どの会場でも多くの皆様から厳しい意見や建設的な意見、提言などをいただきました。



全体会(防災コミュニティセンター)

● **総務文教分科会**
テーマ
伊那市の公共交通を考える
～市内循環バスと買い物弱者等の現状と課題～

各会場で参加者から出た主な意見は次のとおりです。
《高遠町やますそでの意見》
▼循環バスについて
・小型バスに変更して、均一料金、フリー乗車にならないか。

・バスにも各駅停車と急行があってもいい。
・買い物や通院に便利な専用のバスがほしい。
▼玄関から目的地まで行ける交通手段がほしい。
▼ボランティアによる送迎ができないか。
▼免許証返納後の生活がきちんと出来るようにしてほしい。
《伊那公民館での意見》
▼循環バスについて
・通っていない地区のバスルートの新設や、まっくんバスやみのちゃんバスの相互乗り入れができないか。
・乗降場所が自由にできるようにしてほしい。
・通院や買い物を繋げるルートがほしい。
・長い間利用者が少ないバスは廃止したらどうか。
▼移動購買車の起業に対する支援策がほしい。
▼免許証を返納した時の助成金を増やしてほしい。
▼高齢者で免許を持っていなかった人にも、バス・乗合タクシー運賃の割引券を配布してほしい。
《防災コミュニティセンターでの意見》
▼循環バスについて
・きめ細かな路線と増発をしてほしい。
・病院専用のバスがほしい。
・料金は100円均一としたらどうか。
・夜遅くまで運行するバスがほしい。



総務文教分科会(やますそ)

しい。
・無料の日を作り、病院周りの便も月二回程度無料にしてほしい。
▼マイカーを使った送迎ボランティアができないか。
▼免許証返納後も限定して乗れる乗り物を考えてほしい。
▼特区を組んで移動購買車を作ってほしい。
▼農地管理を継続するために、免許返納後も運転できるトラクターの限定免許を考えてほしい。
▼バス停まで行くのが大変なので、ドアツウドアのデマンド化ができないか。

● 社会分科会

テーマ

「健康で暮らしやすいまちづくり」
「子どもの安全・安心を考えると」
「健康長寿・認知症対策を考えると」

社会分科会は、ワークショップ形式で意見交換を行いました。概要は次のとおりです。

《居場所の問題について》

▼子どもだけで安心して遊べる場がない▼自然の中で遊べる場所がない▼空いている公民館などを安く使えないか▼身近な地域で子どもたちが遊べる場所(公園)がない▼ひきこもりに対する理解が少なく、安心して集う場がない

等の意見がありました。

《通学路の問題について》

▼少子化により登下校時に一人になってしまう▼集団登校は安心だが、下校時はバラバラで心配▼部活が終わったからの下校はとても遅い時間になってしまっている▼歩道のない通学路をどうにかしてほしい▼送迎の車が危険である▼通学路の街灯やカーブミラー等、設置要望を出してもなかなか実現しない▼スクールバスを復活して欲しい

等の意見がありました。

《その他》

▼正規職員の保育士、男性保育士を増やしてほしい▼近所に子どもがいることを知らない▼ファミリーサポートセンターのマッチングがうまくいっていない等の意見がありました。



社会分科会(やますそ)

健康長寿を考える

▼長野県の平均寿命は女性第1位、男性が第2位であるが、健康寿命は男女共に全国で20位代である。ここが問題。▼長生きが幸せかよく解らない▼頭や体を動かす運動に男性の参加が少ない▼公民館活動を充実させたい▼「80・50問題」や「90・60問題」の解決と市民後見人制度の育成と活用を行政に望む

等の意見がありました。

認知症対策を考える

▼認知症という言葉は適当か▼認知症を気軽に相談出来る場所が無い▼個人情報保護のため周りの情報が掴めない▼地域で見守りたいが個人情報保護法があり難しい▼あったかご近所ネットで声掛け行動をする▼70歳検診の受診率を上げ、早期発見に努める▼各種サークルに自分から積極的に参加する

等の意見がありました。

● 経済建設分科会

テーマ

「魅力ある伊那市」
「人が集まる伊那の産業(ジョブ)」

経済建設分科会は、ワークショップ形式で意見交換を行いました。概要は次のとおりです。

《企業・産業》

▼正社員の求人が少ない▼若い女性にとって魅力的な職場は必要▼今後は兼業・副業などふわとした仕事が増えたい▼在宅での仕事が増えた

等の意見がありました。



経済建設分科会(伊那公民館)

《観光》

▼国道153号バイパス沿いに道の駅を▼大型バスでお土産を買いやすい▼高山との連携が必要▼ホテルは英語対応を▼女性目線で泊まりたい旅館・ホテルを

等の意見がありました。

《農業・林業》

▼雑穀の広がり▼内藤とうがらしを加工▼大麦わかばの研究▼松本一本ネギのブランド化▼伊那のお米は美味しい▼農産物のネット販売を市がサポートできないか▼林業では補助金なしでは生きられない▼カラマツの多植で動物が里に出る▼畑がだんだん山になっている等の意見がありました。

《移住・定住》

▼移住者を支援する部署が必要▼移住希望者がいても空き家がない▼国道沿いの空き家は嫌がる▼空き家をリフォームして市営住宅に▼3歳未満児は保育園がいっぱいで入れない▼伊那は通勤ラッシュが無くて住みやすい

等の意見がありました。

● 今後の対応

今年も貴重な意見や提言をいただき、ありがとうございます。

早期に解決が必要な緊急課題や中長期で取り組む重要課題などに分類し、今後市長などへの提言につなげていきます。

今回、皆様からいただいた貴重な声は、各委員会で調査・研究の後、報告書としてまとめ、公開することとします。

是非ご覧いただきたいと思えます。

